

テーマ別パスファインダー



「読みやすいロシア文学」選集



✧ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2014年1月16日
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングcommons るくす | LSチーム

I. イントロダクション

- ＜ ロシア文学と聞いて何を思い浮かべますか？『カラマーゾフの兄弟』、『戦争と平和』、それとも『罪と罰』？でもどれも長すぎてなかなか読む気になれない…そんなあなたに比較的手に取りやすいロシア文学をお勧めします。

関係分野：ロシア、文化思想、文学、哲学

II. 民話・昔話

- ＜ (1989)『ロシアの昔話』内田莉莎子編訳、福音館書店
世界中で広く知られている（かもしれない）ロシアの民話集。どこか日本の昔話に通じるところがあり、親しみを持って読める一冊。【外国図-4 階開架 388.38||94】
- ＜ シメリョフ他(1997)『ロシアのクリスマス物語』田辺佐保子訳、群像社
19世紀末から20世紀初頭の作家たちによって書かれたクリスマス物語を集めた一冊。ロシアの伝統的なクリスマス風景をうかがい知ることができるシメリョフの『クリスマス』を始め、さまざまな視点からロシアのクリスマスが描かれている。【外国図-4 階開架 983.7||372】
- ＜ ソモフ(2011)『ソモフの妖怪物語』田辺佐保子訳、群像社
ウクライナ人ソモフが描いた妖怪譚。かつてのウクライナはロシア文化発祥の地として栄え、そこに森の魔、水の精、バーバ・ヤーガといった妖怪たちの民話が生まれた。登場する妖怪たちは、東スラヴ圏の民族的アイデンティティを色濃く反映している。【外国図-4 階開架 983||933】

III. 古典作品の妙訳

- ＜ プーシキン(1996)『エヴゲーニイ・オネーギン』小澤政雄訳、群像社
『オネーギン』は本来韻文で書かれた詩小説であったが、今までその韻律を他言語へ翻訳する事が不可能と思われたため、日本語では単なる小説として訳されてきた。小澤氏はそうした潮流に抗い、日本語の詩韻律5と7に置き換え翻訳することで、『オネーギン』が本来持っていた詩形式、リズム、音楽性を日本語で再現しようと試みた。小説の隅々まで行き渡ったリズムは、あたかも交響曲を聞いているかのような錯覚を覚えさせる。同時に、その詩韻律を保持するために選び抜かれた日本語の語彙の豊かさに、読者はただため息をつくばかりである。【外国図-4 階開架 981||508】
- ＜ ゴーゴリ(2006)『鼻；外套；査察官』浦雅春訳、光文社
ゴーゴリの代表作を、翻訳家として名高い浦雅春が新訳したのがこの一冊。ゴーゴリの持っている軽快なユーモアを活かしながら、それを日本の落語調に置き換え、古典作品に新しい息吹を与えている。
【理工学図-東館 2F 文庫新書 K||KBN||GOG】

III. ユーモア小説

＜ ゴーシェンコ (2012) 『俺の職歴』 ロシア文学翻訳グループクーチカ訳、群像社

ユーモア作家ゴーシェンコの短編集。物語に登場する主人公たちは、いずれも社会階層の下部にいる者たちである。彼らの粗野な話しぶりや、どこか間の抜けた行動は、ユーモラスなだけでなく親しみやすく、愛嬌がある。日本人の考えるユーモアとは笑いのツボがずれている気がしないでもないが、これはこれで楽しめる一冊。【外国図-4 階開架 983.7||191||28】

＜ チェーホフ (2006) 『チェーホフ・ユモレスカ』 松下裕訳、新潮社

日本でチェーホフの作品としてすぐに名前が挙がるのは、恐らく四大戯曲ではないだろうか。そのせいか、チェーホフが軽快なユーモア作家としてデビューしたことは、あまり知られていない。『ユモレスカ』にはチェーホフ作品と聞いてすぐに連想される悲劇的人物のかわりに、滑稽で一風変わった人々が登場する。【外国図-4 階開架 983||915】

IV. 女性が主人公の物語

＜ リュドミラ・ウリツカヤ (2002) 『ソーネチカ』 沼野恭子訳、新潮社

本の虫で容貌のパツとしないソーネチカは、1930年代にフランスから帰国した反体制的な芸術家ロベルトに見初められ、結婚する。当局の監視下で流刑地を移動しながら、貧しくも幸せな生活を送る夫婦。一人娘が大きくなり、ヤーシャという美少女と友達になって家に連れてくる。やがて最愛の夫の秘密を知ったソーネチカは…。神の恩寵に包まれた女性の、静謐な一生が描かれた作品。【外国図-4 階開架 983.7||430】

＜ ソルジェニーツィン (1968) 「マトリョーナの家」『新しいソビエトの文学 6』 江川卓訳、勁草書房

この小説の最後で、マトリョーナは次のように描写されている。「自分の夫にすら理解されず、棄てられたひと。六人の子どもを次々と失ったが、善良そのもののような性格は決して失わなかったひと。妹や義理の姉たちとは、あまりにもかけはなれた生涯を過ごしたひと。他人のために無料奉仕する、間の抜けた、愚かなひと。このひとは、死んだとき、何の蓄えもなかった。薄汚れた山羊と、びっこの猫と、イチジクと…わたしたちは、このひとのすぐそばで暮らしていながら、だれひとりとして、このひとが敬虔の人であることを知らなかった。」 どうしようもなく善良な、愚かさや聖性を併せ持った女性の物語。

【外国図1 階書庫一般 988||124||6】

＜ チェーホフ (1940) 『犬を連れた奥さん』 神西清訳、岩波書店

ヤルタで出会った女性「犬を連れた奥さん」とグーロフは、社会・道徳的に許されない恋に落ちる。解決策の見つからない絶望的な人生の岐路に立たされながらも、物語には一筋の光が射している。19世紀末に書かれたこの物語の人物たちには、おそらく当時代に生きていた人々の時代の変化に対する予感と希望が重ねられている。【外国図-4 階文庫 983||207】

✧ [パスファインダーの凡例]

✧ 図書情報は以下の順に表記しています。(主に論文の参考文献に使われている書式です。)
著者名 (出版年) 『本の名前』 出版社名, 翻訳者名 (あれば)

✧ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と配架場所、請求記号を記しました。

総合図 → 総合図書館 (豊中キャンパス)

生命図 → 生命科学図書館 (吹田キャンパス)

理工学図 → 理工学図書館 (吹田キャンパス)

人図 → 人間科学研究科図書室 (吹田キャンパス)

外国図 → 外国学図書館 (箕面キャンパス)

外国図-雑誌 → 直近1~2年に出版されたものは3階雑誌コーナー、バックナンバーは1階書庫

電 → 電子ジャーナル、電子ブック

※雑誌、電子ジャーナルは、すべての巻号が利用できるとは限りません。

✧ 検索を容易にするために、ISBN (各図書固有の識別番号) や ISSN (各雑誌固有の識別番号) を記している場合もあります。

✧ 外国学図書館を中心に紹介していますので、記載している場所以外でも貸し出し可能な場合があります。図書館各階にある検索端末で確認するか、カウンター/LS デスクまでお尋ねください。